

特250

347

資料第九輯  
昭和十七年八月

馬來の貿易

財團法人  
日本貿易振興協會

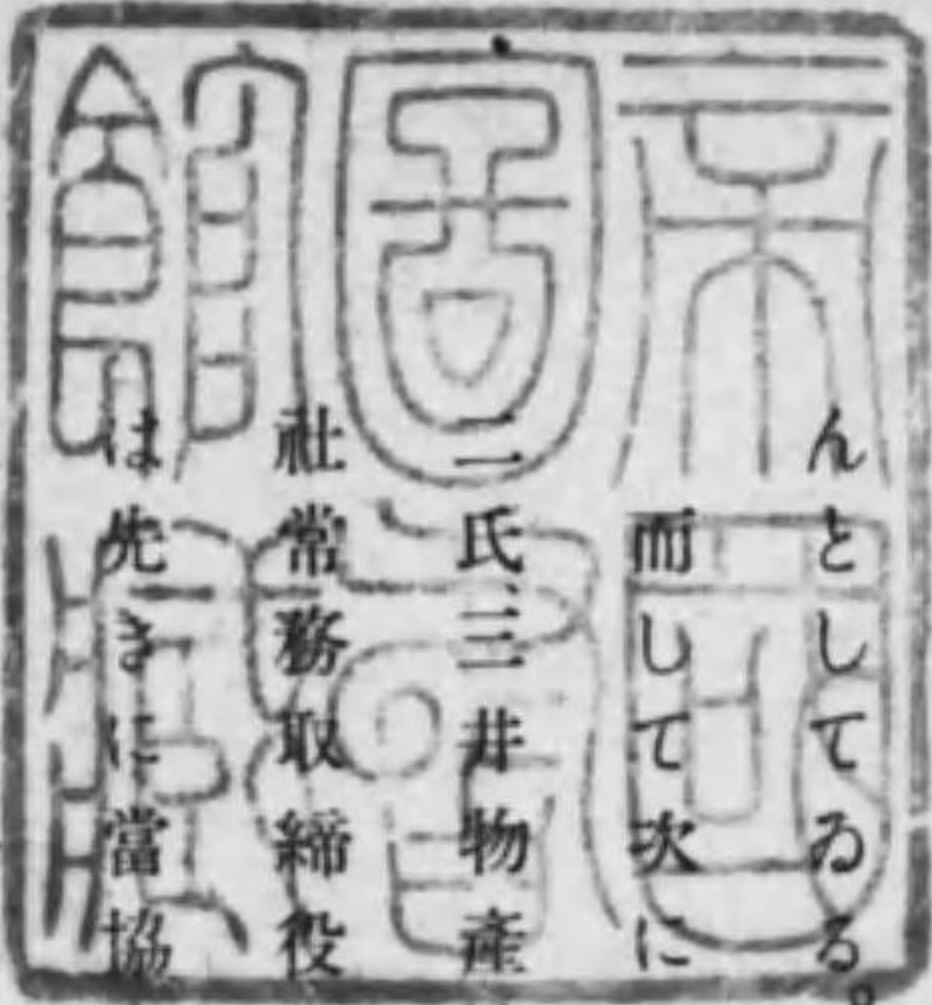


始



特.250  
347

當協會日本貿易研究所は開所以來南方諸地域の調査研究に努力し來り、既に佛印並に泰國に關する調査を一應完了し、近く比律賓に關する調査も完成を見



んとしてゐる。而して次に馬來の研究に歩を進めんとするに當り、神戸商業大學教授金田近

一氏三井物産株式會社大阪支店庶務課長吉岡利起氏並に野村殖産貿易株式會社常務取締役鈴木正武氏の參集を乞ひ、それぞれ有益なる説話を伺ひ、その概要は先きに當協會の貿易時報第一七八號を以て報導せるところである。次いで



更にその全内容を印刷に附せんと計畫せるも時節柄用紙その他の關係にてその運びに至らず、已むなく當協會として最も關係深き貿易に關する鈴木氏の説話のみを茲に刊行することとした。此の點金田、吉田兩氏並に會員各位の諒恕を乞ふ次第である。

尙本輯は特に鈴木氏の校閱補訂を経たるものにして、また大方の參考ともな

らば幸甚である

昭和十七年八月

財團  
法人  
日本貿易振興協會

二



# 馬來の貿易 目次

- 一、貿易額……………一
- 二、貿易上の特質……………二
  - (イ) 貿易額の激變……………二
  - (ロ) 貿易額の過大……………三
- 三、純貿易……………八
- 四、貿易尻……………一
- 五、貿易内容……………三
- 六、貿易對手國……………四
- 七、輸出入港と徑路……………五
- 八、最近の貿易情勢……………五
- 九、對日貿易……………六
- 一〇、むすび……………一〇

附表第一 馬來の純貿易額……………二  
 附表第二 馬來の地域別貿易……………三  
 附表第三 馬來の國別貿易……………四

## 馬 來 の 貿 易

### 一、貿 易 額

私は馬來の貿易に就いてお話し上げたいと思ひます。先づ最初に馬來の貿易總額を述べること  
に致します。

馬來の貿易總額も詳しい數字は煩はしいので最近のことだけ申し上げますと、一九四〇年は輸出  
十一億二千七百萬海峽弗(以下單に「弗」と略稱す)、輸入八億三千萬弗、總額十九億六千萬弗、差  
引出超が二億九千四百萬弗、一九三九年は輸出七億五千萬弗、輸入六億二千八百萬弗、總額十三  
億七千八百萬弗、差引一億二千二百萬弗の出超であります。ところが一九三二年には貿易總額僅  
かに七億四千六百萬弗に過ぎず、又一九二六年には二十三億二千三百萬弗に上つたこともありま  
す。

馬來の貿易總額と貿易尻 (單位千弗)

年次	輸 出	輸 入	總 額	入 出 超
一九一三	三八八、九三〇	四七九、四五五	八六八、三八五	九〇、五二五(一)

一九二〇	一、〇二四、〇四六	一、二七〇、二二二	二、二九四、二五八	二四六、一六六(一)
一九二六	一、二七三、四七四	一、〇五〇、一一二	二、三二三、五八六	二二三、三六二
一九三二	三六六、三〇一	三八〇、三七八	七四六、六七九	一四、〇七七(一)
一九三六	六二七、七六二	五〇三、〇二四	一、一三〇、七八六	一二四、七三八
一九三七	九〇五、一〇五	六九八、四二五	一、六〇三、五三〇	二〇六、六八〇
一九三八	五八一、五五四	五五九、四一〇	一、一四〇、九六四	二二、一四四
一九三九	七五〇、一九四	六二八、一四二	一、三七八、二三六	一一二、〇五二
一九四〇	一、一二七、〇〇〇	八三三、〇〇〇	一、九六〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇

## 二、貿易の特質

### (イ) 貿易額の激變

之によつてわかることは馬來の貿易總額は年により非常に變動してゐるといふことであります。この理由は後で詳しく申し上げますが、今敢て敢えず一口にいひますと貿易の内容をなして居るものが殆ど農産物であるといふことであります。農産物は輸出に於てその大部を占めて居

るのみならず、輸入に於ても非常に大きなパーセンテージを示して居る、而も農産物は世界の景氣の影響に非常に敏感でありまして、その結果として貿易總額が非常に動く、特に輸出貿易の約半分がゴムでありまして、そのゴムの相場が非常に激しく變動する、そこで貿易數字がまた激動するといふ結果を來して居るのであります。大體の觀察としましては、一九二五年頃から二七年頃迄の世界の好況時代には大體二十億弗の貿易數字をもつて居り、二九年の恐慌以後漸減しまして三一、二年には七億弗臺に激減して居る。その後世界景氣の回復に伴つて漸次貿易數字も回復して來たのであります。特に大東亞戰爭前にはアメリカの戰爭準備のためゴム、錫の輸出が非常に多かつたのであります。

### (ロ) 貿易額の過大

第二に注意すべき點は貿易總額が大きいといふこと、同時に、人口一人當りの貿易數字が他の南方諸國に比較して飛抜けて大きいといふことであります。此の表にあります様に馬來では總額十九億六千萬弗の貿易數字に對して人口は五百二十七萬八千人、一人當り三百七十一弗に當るのであります。他の地方はその足許へも寄れない位少いのであります。日本をとつて見ますと、一人當り七十三圓位になります。馬來の三百七十一弗を戦前の爲替相場で換算しますと七百四、五

十圓になりますから日本の十倍にも相當します。

南方地域貿易額比較表

國	貿易總額		人口	一人當り
	額	人		
馬來	一、九六〇、〇〇〇千佛(一九四〇年)	五、二七八、八六六人(一九三九年)	三七一、二九	
東印	一、三七八、〇〇〇千盾(一九四〇年)	七〇、四七六、〇〇〇人(一九四〇年)	一九、五五	
比島	五一六、〇〇〇千比(一九四〇年)	一三、六〇〇、〇〇〇人(一九三八年)	三七、九四	
佛印	五八七、七〇〇千法佛(一九三九年)	二二、三〇〇、〇〇〇人(一九三八年)	二五、二二	
泰國	四一一、一五七千銖(一九三八年)	一四、六五〇、〇〇〇人(一九三八年)	二八、〇七	

然らば斯様に貿易額の多大なる理由は何處にあるかと申しますと、第一の理由はゴムの栽培が他の地域に比較して非常に進んで居つたといふことであります。第二には錫の開発が又非常に進んで居つた。第三には中繼貿易が非常に發展して居つたこの三つになるだらうと思ひます。

第一のゴムの栽培であります。ブラジルのバラゴムを南方に移植したのは錫蘭と馬來とが一番早く、爪哇、スマトラ、ボルネオ、佛印、泰は之に後れて栽培される様になつたのであります。爪哇は今日能く云はれて居ります様に、山の頂上迄立派な道路が敷詰められてゐるといふ程開發されて居る。或人の觀方或は言ひ方を藉りますと爪哇は過去に開發された處である、馬來は現在

開發されてゐるところである、スマトラ、ボルネオ、ニューギニヤは將來に開發される處であるといふのであります。さういふ様に馬來の開発が進んで居る、然かも馬來の開発は殆んどゴムの栽培に集中して居つた、従つてゴムは一九三四年から國際限産協定によつて統制を行つてゐるのであります。その統制に依る國別割當は馬來が一番多い、本年の割當が六十五萬一千噸、之につぐものは東印度の六十五萬噸、その次は遙かに下つて錫蘭の十萬九千五百噸、印度の一萬七千五百噸、佛印——これは特殊な形式で生産制限の中に入り込んで来て居りますが、先づ今年の生産能力は七萬五千噸と目されて居る、泰國が五萬六千噸、サラワークが四萬四千噸、北ボルネオが二萬一千噸、緬甸が一萬三千七百五十噸である。ところが去年は戰爭準備のために、昨年度割當標準生産量の一〇五パーセントの輸出をして居りますが、他面アメリカが急いでゴムを買つた爲に相場が非常な強調を呈して、昨年を通じて三十七、八仙を維持した爲に金額が嵩んで来てゐるのであります。とに角さういふ風にゴムの栽培が他の南方諸國に先んじて行はれて居り且つ非常に發達してゐたので生産量の多いといふことが馬來の貿易額を多くする一つの理由であります。

第二は錫の開発が非常に進んで居つたといふことであります。是は先刻吉岡さんからもお話

がありましたやうに、既に四百數十年前に支那人に依つてペラ州の錫が採掘されてゐた様に、相當古い歴史を持つて居ります。現在はゴムと同じやうに國際錫生産協定がありますが、總額は二十一萬二千六百八十九噸であります。その中で馬來の占めて居る錫が七萬七千三百三十五噸、之につぐものはボリビヤの四萬九千三百九十七噸、蘭印の三萬九千五百五十五噸、泰國の二萬百三十六噸それから白領コンゴ、ナイゼリヤと佛印といふことになつて居りますが、馬來では年産一〇萬噸の生産能力があると見られて居る。斯様に錫の埋藏量が他の國に比較して多いといふことと、歴史的に見ても半世紀も前から開發されて居つて、現在の國際割當に於ても世界總産額の三割六分を占めて居るといふことが馬來の貿易額を多くしてゐる第二の理由であります。

第三は中繼貿易が多いといふことであります、然らば何故中繼貿易が多いかといふと、第一に地理的の理由があると思ひます。詰り馬來が東洋と印度及び歐洲との交通上の要衝に當つて居り、更に印度と濠洲との中間に位するといふ風に地理的に非常に恵まれた條件の下にあること、第二には政策的の理由と名付けても良からうと思ひますが、一九一八年にラツフェスの慧眼によりシンガポールが英國の手に入つて以來、之を自由貿易港として政策的に南洋物資の集散市場に作り上げて來たことであります。

自由港貿易政策は勿論輸出輸入の關稅をフリーにして、物資の輸出入を容易にするといふことであります、同時にシンガポールを南洋物産の市場にしたといふ大きな事實があります。従つて南洋各地で生産されます農産物は一旦シンガポールへ入つて來まして此處で選別され、又一部ゴムの如きは此處で加工され、格付が行はれ、さうして國際市場に於ける輸出商品となる。それと共に又此處には昔の自由主義經濟の下に於ける思惑市場が非常に發達したのであります。後で申しますがゴム等は馬來の輸出商品の首位を占めてゐると共に又輸入に於ても首位を占めて居る輸入に於て首位を占めるのはシンガポールが思惑市場の中心であるから一旦此處へゴムが集つて來て、それから各々所を得て世界各市場に輸出されるのであります。蘭印、泰國、佛印等で生産される所謂土人ゴム即ちネーティヴ・ラバー (Native Rubber) 及び農園裾ゴムは國際商品としては向かないのでシンガポールで加工されてブランケット・クレープといふ銘柄のものになつて出て行く。さういふ加工工場をシンガポールに非常に澤山設立させてやつて居る。又珈琲等の例を取つて見ましても、珈琲は殆ど馬來では生産されて居りません。多少はありますけれども全馬來の消費にも足りないにも拘らず、珈琲の市場といふものがシンガポールにあつた。又ダマールといふ風なものも馬來には餘り産しない、主たる産地はボルネオのポンチアナツクとスマトラの

八  
パレンバンといふところですが、是がシンガポールに入つて来て選別されて輸出される。又錫の場合には先刻もお話がありました通り彼南、シンガポールの二ヶ所に大規模な製錬工場を設け、馬來の原鑛のみならず、泰國、蘭印、佛印、アフリカのものも、驚くべきは日本のもの迄全部シンガポールと彼南の製錬工場で製錬され、九十九パーセント幾らといふ純度になつてはじめて外國に輸出される。さういふイギリスの政策が成功して中繼貿易が非常に發達した。

以上の三つの理由が馬來の貿易額を非常に多くしたものだらうと思ひます。

### 三、純 貿 易

然らばさういふ中繼貿易といふものを抜きにして、馬來の純貿易はどうかと申しますと、大體蘭印、馬來の貿易統計の中には數量を示されないで金額だけ出てゐるものが輸出にも輸入にも多いから、主たる商品に就いては再輸出される數量が大體判りますけれども、從たる商品に就いてはそれがはつきりいたしません。又ゴムと錫は今申上げました通り、馬來に入つて加工されて價値を増殖して出て行くものがあるといふわけで果してどれだけが馬來の純貿易で、どれだけが中繼貿易であるかといふ計算が非常にむづかしいといはれて居りますが、簡單に一九三九年に就き

まして輸出と輸入の、唯單純に頭からだぶつてゐるものだけを引いて表を作つてみたのであります。(附表第一 参照) ところで之が本當の馬來の純貿易であるとはいへますまいが、大體の傾向を察知することが出来ると思ひます。さうして見ますと輸出の方ではゴムが第一位で二億六千三百萬弗、その次は錫で約一億弗、その次はバームオイル、コ、ナットオイルとか油脂並に油脂原料が一千三百三十萬弗、その次の原鑛が九百十八萬弗位、主なる輸出品はこの四つに盡きて居るといはれて居ります。是程馬來の貿易といふものは單純でありまして、又輸出貿易が單純だといふことは、産業の性格が單純であるといふことを意味して居る。さつき吉岡さんのお話にもありました通り馬來はRTCで持つて居りますが、RTだけでもよいのであります。Cのコブラ、それにバーム・オイルを入れましてもその金額は千三百萬弗で、ゴムの二億六千三百萬弗、錫の一億弗には到底及ばない。詰りゴムと錫の二つで殆んど馬來の輸出貿易を代表して居るといつても差支へないのであります。

輸入の方は食料品(穀類及穀料五千四百四十萬弗、その他食料、無稅飲料二千六百九十萬弗、煙草及び有稅飲料壹千八百五十萬弗)關係を第一位に、その次は石油、石鹼類の參千七百四十萬弗、纖維關係の約貳千七百八十萬弗、機械類壹千六百萬弗、自轉車部分品壹千壹百貳拾萬弗の順



位になつて居りまして、合計貳億七千六百萬弗になります。

斯くして純輸出入額は合計六億七千四百萬弗になり、一人當りに直して見ますと百貳拾七弗位になりまして、他の南方諸國に比較すれば著しく高いのみならず、日本よりもまだ高いことになります。それでは何故そんなに馬來の貿易數量が大きいかといふと、前に申上げた如くゴムの栽培が旺んであり、錫の開発が進んでゐる結果、馬來の貿易依存度が非常に高い、例へば年約百萬噸を消費する米の如きでさへ、三分の二即ち約六十五萬噸は之を輸入に仰いで居るのであります。然らば何故貿易依存度が高いかといふと、是は馬來の經濟中自給自足經濟を營んで居る住民の占める割合が非常に少いからだといふことになります。五百三十萬人の人口の中で二百二十一萬人が馬來人、二百二十二萬人が支那人、七十何萬人が印度人といふ構成になつて居ります。この馬來人と雖も輸出産業たる農園の勞働者が大部分ですから、蘭印とか泰國、佛印で見るとやうな自給自足、之を未開の状態と申しますか文化の低い状態といひますか、さういふ住民が非常に少い。人口の大部分が貿易に關係を持つてゐるといふことが馬來の一人當りの貿易高が高い根本的な原因だと私は考へる。

#### 四、貿易

その次に貿易尻の問題であります。是は他の南方諸國がさうであるやうに、矢張り馬來に於ても輸出超過となる状態であります。是は植民地といふものゝ性格から見れば植民地が或年限の開墾時代を経過して収益時代に入れば輸出超過になるのは當然のことです。従つて蘭印でも泰國でも佛印でも馬來でも、既に収益時代に入つて居るから非常な輸出超過を來たして居るのだと考へられます。馬來では一九二四年頃迄は入超時代でそれ以後に出超に轉換して居るのであります。然かもこの貿易尻は先程貿易總額のところで申述べました様に、ゴムや錫の價格の變動によつて大きな影響を受けゴム、錫の價格の高い年には出超が多く、然らざる年には出超が少い。それでは一九二四年以後輸出超過時代に入つたにも拘らず、一九三二年の如く世界景氣の不況のどん底にあつては矢張り入超を示して居る。是は馬來の産業なり貿易が性格を一變して収益時代から又開墾時代に入つたといふことではなくして、貿易が價格變動の甚しい錫とゴムといふ二大商品に基礎を置いて居る爲に現はれた現象に過ぎない。さうしてこの出超尻といふものが他の南方諸國に於けると同様、企業の報酬又はその方に働いて居る人間の本國送金となり貿易外收支として消え

て居る。殊に馬來では他の南方諸國と著しく異り、その労働者が出稼労働者である。蘭印の場合には全部インドネシアである、勿論スマトラ、ボルネオの苦力は爪哇から来る爪哇人で、従つてその意味では出稼といへるかも知れませんが、蘭印といふ一つの固りからいへば労働者が皆同國人である。ところが馬來では主として支那及び印度から勞力を仰いでゐる、さつきも申しましたやうに人口五百三十萬の内馬來人が二百二十一萬、支那人が二百二十二萬、七十數萬が印度人で、彼等は主としてゴムを中心とする農業及び錫の労働者であります。錫の労働者は殆ど全部支那人であり、ゴム農園の労働者でもタツパーといふ特殊技術を有する者は殆ど支那人である。ゴム園のアップキープには印度人が使はれてゐる。さうした労働者の支那、印度に對する本國送金は相當多額に上るのであります。

### 五、貿易内容

次に輸出貿易と輸入貿易の内容に少し立ち入つてみたいと思ひますが、實はその大體はさつき申上げてしまつて居るのであります。輸出はゴムとコブラとパームオイル、バイナップル、を中心とする馬來産の農産物とそれから錫等の礦産物及び蘭印、泰國、佛印から入つて来る中繼貿易

品を以て構成されて居る譯ですが、一九三九年の輸出貿易の總額がさつき申上げました通り七億五千萬弗、その内輸出入兩方にあるものを差引た純輸出が四億弗になります。その計算からゆくと中繼輸出は三億五千萬弗といふ譯ですが、別にもつと詳細に計算してみましたけれども、矢張中繼輸出は大體三億五千萬弗といふことになります。その輸出の中で最大のものはゴムです。ゴムは一億一千四百萬弗位の輸入、さうして輸入總額六億二千八百萬弗に對して、一八・三%に當ります。さうして輸出に於ては總額の七億五千萬弗に對して三億七千三百萬弗、輸出總額の半分を占めて居る。次に大きいのは錫であります、錫は原礦が七千六百六十萬弗位入る、總輸入額の九%位、それが製鍊され尙馬來産の錫も加つて一億六千萬弗(二一%)輸出される。その次に大きな輸入品は穀類の七千三百萬弗で輸入總額の一・九%を占めてゐる。さうして一千八百萬弗位輸出をして居りますが、兎に角輸入の中の第三位を占めて居ります。第二位の輸入は油類で、是は石油、香油類及び石鹼といふやうなものを統計上同じ部類に入れて居り、變ですけれども統計にはさういふものが入つて居つて是が九千二百萬弗で一四・五%位を占めて居ります。さうして是は更に五千五百萬弗位再輸出をしまして、純粹の輸入が三千七百萬弗である。日本等も蘭印の石油を直接蘭印から買ふよりも、馬來を通して買ふ方が非常に多かつた。さういふことのため

に石油が輸出に於ても輸入に於ても大きなパーセンテージを占めてゐる。大體通觀して見ますと今のやうに輸出は農産物と錫であり、輸入は食糧品と纖維製品とさうして機械類とであります。

#### 六、貿易對手國

貿易を國別に見ますと、一九三九年は輸入の中英本國よりの輸入が一四・五%、英國屬領に對するものが一九・八%、その他外國との貿易が六五・六%、輸出に就いて見ますと、英本國向が一〇・九%、英國屬領向が一六・八%、その他第三國向が七二・三%でありまして、馬來の貿易は英國並に英本國に對する依存度が大體三一—二パーセント、残りの六八—九パーセントは第三國貿易である。確か蘭印が和蘭本國に對する貿易依存度は約二割だと思つて居りますが、それに比較すると英本國に對しては先づ殆ど同様ですが、英屬領を加へると馬來の方が高い。従つてプロツク經濟といふ風なもの、見地から云ふと、蘭印よりも馬來の方が緊密性が高い。之は政策的にも容易であることが一因をなしてゐると云へるでせう。今申ししたのは一九三九年の統計ですが、大體それ位の計數が普通であると思つて宜いやうに思ひます。更に詳しいことは附屬表で御覽願ふこととして省略させて頂きます。(附表第一、第二參照)

#### 七、輸出入港と徑路

次に輸出入港と輸出入の徑路を簡単に申上げたいと思ふのであります。先づ馬來の輸出徑路は地形で見ても解りますやうに陸路は北接する泰國との間に二本の鐵道と二本の道路を以て、極めて僅かな貿易が行はれるのみで、それ以外のものは大部分、殆ど全部といつて宜い位海上からする貿易で陸上貿易が非常に少い。この事も當然のことですが特徴の一つと見て良からうと思ひます。

次に輸出入港としましてはシンガポール港、今の昭南港が壓倒的に多いのであります。其次に多いのは彼南、マラツカ、ポート・スウェツテンナム、ウエルスリーの諸港で、之等が馬來の貿易の大部分を占めて居ります。

#### 八、最近の貿易情勢

それから次に最近の貿易情勢といふものに就いて申上げたいと思ひますが、之も時間がありませんので詳しく申上げられませんが、イギリス政府は馬來についても自由貿易港政策といふもの

をとつて居りますが、是が一九三四年になりまして從來の自由貿易制度といふものが維持困難になつた時に、馬來も遂に傳統の誇を捨て、一九三四年五月に織物の輸入割當制を敷き、さうして日本からの爲替安に依る綿布及び人絹布の輸入防壁に掛つた。それで輸出方面に於きましても一九二二—二八年スチブソン式によるゴムの輸出統制をやつて居りますが、一九三四年には實際限産協定に依るゴムの輸出統制をとりはじめた、さうしてオッタワ會議以後は完全に統制貿易に入つて來たのでありますが、それが一九三九年になつていよいよ獨逸との戦争といふことから國防財政規則といふものに基いて爲替管理令を敷いてシンガポール・ダラーの擁護に出で、更に是が發展しまして輸入管理令、輸出管理令といふ風になつて、輸入に於ては輸入制限品目及び輸入禁止品目を列挙しまして、制限品目は七十六、禁止品目は二百三十六を擧げて、非常に強い統制貿易に入つて來た。これと同時に、輸出に於きましても敵國獨逸及び伊太利へ重要物資の流出を阻止するため輸出管理をなし、八十一の輸出制限品目を擧げて非常に廣汎圍の馬來物資の輸出を統制した。さうして完全に自由貿易港としてのシンガポールの面目は捨て、しまつた。

### 九、對日貿易

英領馬來の對日貿易は累年躍進的增加の一途を辿つて參りました。一九〇七—一一年までは馬來總貿易額に於いて僅に平均二・七%を占めて居たに過ぎませんが、一九三〇年には三・五%に増加し、一九三四年には八・六%に進みました。然るにこの年を最高として後に述べる如き日本品の輸入制限を目的とする織物割當制によつて減退することになりました。

對日貿易額及比率 (單位千冊)

	一九三二年	一九三四年	一九三八年	一九三九年
對日輸入額	一七、八九五	三七、五〇二	一二、四二六	一一、四八〇
總輸入額	四五七、六一七	四六七、一五六	五四六、六一〇	六二〇、六一九
總輸入額に對する%	三・〇	八・〇	二・三	二・〇
對日輸出額	四九、七二八	五一、三八八	五三、八八七	六四、二五六
總輸出額	四二九、八二八	五六六、六四五	五六九、三二二	七三六、四七九
總輸出額に對する%	一〇・〇	九・〇	九・五	八・七
對日輸出超過額	三〇、八三三	一三、八八六	四一、四六一	五一、七七六
對日輸入超過額	六七、六二三	八八、八九〇	六六、三二三	七六、七三六
總輸出入額	八八七、四四五	一、〇三三、八〇一	一一一五、九一二	一、三五七、〇九八
總輸出入額に對する%	七・六	八・六	五・九	五・六

對日貿易の最も顯著な特徴は例外なく年々、然かも相當多額の出超であると云ふことであります。對日輸入の最も多かつた一九三四年でさへ壹千參百八十八萬弗の出超に終つて居ります。これは日本がゴム、錫、ガソリン、鐵鑛等の南方物資を馬來から集中的に買附けて居るためであり、集中的に買附けるのは前に述べた如くシンガポールが南方物資の中心市場であるからであります。

一九三九年に就いて見るに輸出品の第一位はゴムで二二、六三二、七二三噸、第二位は錫の一六、一〇一、千弗（八、三八三噸）、第三位はベンジン一〇、四一六、千弗（一〇七、四三二噸）、第四位は鐵鑛九、一四九、千弗（一、九四四、七〇一噸）、第五位はすつと落ちて石油二、〇二三、千弗（二〇、〇二七噸）、第六位は隣酸石灰の一、八八四、千弗（一三四、五七〇噸）となつて居ります。

輸入品に於いてはその種類は數百種に上つて居るが金額で百萬弗を超ゆるものは石炭の一、三七八、千弗（一五三、〇七九噸）、人絹布一、八〇四、千弗、捺染綿布一、二一三、千弗位のものである。尤も纖維製品全体では約六千萬弗に上り、全体の約五〇%を占めてゐる。その他乾鹽魚、セメント、珓瑯鐵器、亞鉛引鐵板、鋸罐詰、自轉車部分品、護謨靴等が十萬弗台に上つて居ります。

日本商品は約十回に亘る支那人の排日貨にも拘らず廉價を有力な武器として着々地盤を築き、一九三四年には爲替安に乗じて、遂に英國製綿布、人絹、混織物の牙城を陥れる勢を示したため、

遂に一九三四年六月廿四日附官報布告を以て一九三四年織物輸入割當（制限）法が發布され、關係五ヶ國、日本、支那、伊太利、蘭領東印度、和蘭諸國には品種別輸入割當を、他の諸國には總輸入額に對する割當を実施することとなり、制限適用織物は綿、人絹及びその交織物にして重量に於いて綿又は人絹を五〇%以上含むものと定義され、人絹布、生地（晒、未晒）綿布、染色綿布、捺染織布、絲染綿布、綿サロン、人絹サロンの七種がこの割當適用織物と指定され、輸入免許なくしては何人もこれが輸入をなし得ざることとなり、斯くしてシンガポールの自由港たる榮譽は棄て去られたのであります。而してこの割當の基準は英國に最も有利な一九二七年より一九三一年に亘る輸入の實績に求められました。

次いで一九三八年には織物輸入割當の追加品目として綿製品、人絹製衣類、綿製肌着、人絹製肌着の輸入割當制が追加され、これ又日本製品の輸入を困難ならしめたのであります。

更に一九三九年の秋、對獨戰爭の勃發に伴つてシンガポール・ダラーの擁護のため輸入管理令を發令し、先に申上げた如く七十六の制限品目、二百三十六の禁止品目を擧げたのであります。これは特に日本商品に影響する所多く、對日輸入は激減し始めた。又敵國獨乙及び伊太利へ重要物資の流出を阻止するため輸出管理令を出し、八十一制限品目を擧げ、これ等物資の日本經由流

出を惧れて一九三九年十二月よりゴム、錫等の日本向輸出量を限定し、一九四一年一月にはこの數量を更に縮少し、四月以降は全く輸出を禁止してしまひました。

斯くして七月の資産凍結令に依つて輸出入共に完全に停止し、大きく政治的に解決するか、然らざれば戦争か、と云ふ最後の土壇場に突き當つたのであります。

一〇、む す び

今や馬來は皇軍の占領下に於いて、新に東亞共榮圏の一環として再出發を急いでゐる。避生の氣は半島の隅々迄漲つてゐる。この時、英領下に在つた當時の舊馬來貿易の解剖、吟味が、多少でも參考となりますならば私の望外の幸であります。

附表第一

馬來の純貿易額

(單位海峽幣)

Commodities	Imports Values	Balance	Exports Values	Balance
Grain and Flour	\$ 73,040,353	\$ 54,421,637	\$ 18,618,716	\$ 109,123
Feeding Stuffs for Animals	379,849	—	488,972	—
Meats	3,208,011	3,020,778	187,233	—
Animals, Living for Food	2,958,245	2,948,152	10,093	—
Other Food and Drink Non-dutiable	68,611,235	26,897,346	41,713,889	—
Drink dutiable and Tobacco	21,851,711	18,467,662	3,384,049	—
Animals, Living, not for Food	319,396	189,429	129,967	—
Coal	6,324,642	6,288,210	36,432	—
Other Non-Metaliferous Mining and Quarry Products, and the like	921,647	841,140	80,507	—
Iron Ore and Scrap	27,323	—	9,211,886	9,184,569
Non-Ferrous, Metalliferous Ores and Scrap	60,347,396	—	162,028,678	101,681,282
Wood and Timber	3,181,905	2,052,251	1,129,654	—
Raw Cotton	20	20	—	—
Other Textile Materials	53,883	4,263	49,620	—
Seed and Nuts for Oil, Oils, Fats, Resins and Gums	14,045,538	—	27,389,107	13,343,569
Hides and Skins, Undressed	185,058	—	267,126	82,068
Rubber and Gutta Percha	114,758,637	—	377,904,949	263,146,312
Miscellaneous Raw Materials and Articles Mainly Un-manufactured	3,995,813	—	6,783,406	2,787,593

Earthenware, Glass and Abrasives	10,302,039	9,470,245	831,794	
Iron and Steel and Manufactures thereof	21,375,954	18,693,927	2,682,027	
Cutlery, Hardware, Implements and Instruments	4,336,791	3,272,335	1,064,456	
Electrical Good and Apparatus	5,646,806	5,073,264	573,542	
Machinery	18,202,947	16,027,278	2,175,674	
Cotton Yarn and Manufactures	23,490,751	17,851,462	5,639,289	
Woolen Goods	1,167,172	1,061,065	106,107	
Silk and Silk Manufactures	1,304,160	910,970	393,190	
Manufactures of Other Textile Materials	6,818,539	3,812,817	3,005,722	
Apparel	5,235,064	4,172,979	1,062,085	
Chemicals, Drugs, Dyes and Colours	12,275,827	7,927,561	4,348,266	
Oil, Fats and Resins Manufactured	92,424,602	37,394,376	55,030,226	
Leather and Manufactures thereof	994,328	677,540	316,788	
Paper and Paperware	5,833,869	4,188,884	1,644,975	
Vehicles (Including Locomotives, Ships and Aircraft)	15,154,872	11,245,275	3,909,597	
Rubber Manufactures	3,346,739	1,420,156	1,926,583	
Miscellaneous Articles wholly or mainly Manufactured	18,498,062	16,143,084	2,354,978	
Parcel Post	3,589,926	1,900,265	1,689,664	
Coin and Bullion	3,932,707	—	12,024,955	8,092,248
Total	628,141,807	276,374,353	750,194,202	398,426,748

Malayan Statistics, December, 1939に於る。

附表第二

## 馬來の地域別貿易

(單位百萬海峽幣)

	United Kingdom		British Possession		Foreign Country	
	Import from	Export to	Import from	Export to	Import from	Export to
1937	108.2	100.2	120.7	123.0	463.2	679.6
%	15.6	11.1	17.4	13.6	66.9	75.3
1938	102.3	82.1	100.4	102.0	352.2	395.6
%	18.4	14.1	18.1	17.5	63.4	68.3
1939	90.9	81.1	123.7	126.0	410.0	541.4
%	14.5	10.9	19.8	16.8	65.6	72.3
1940	113.2	163.7	125.5	142.4	591.5	822.1
%	13.7	14.4	15.1	12.6	71.2	72.8

Malayan year book に依る

第八輯	第七輯	第六輯	第五輯	第四輯	第三輯	第二輯	第一輯	資料
統制經濟と對外貿易	廣域經濟と通商政策	米州廣域經濟の難點	一九四〇年度戰時貿易對策概觀	比律賓の展望	支那の通貨問題とその實情 一九四〇年度の支那外國貿易の概觀 支那に於ける米國商品の分布	泰國關稅定率法	泰を語る	

東京 調查部 (東京日館別館内)	本部 大阪市北區宗是町一番地 (大阪ビル内)	關西支部 大阪市北區堂島濱通二丁目十二番地 (大阪商工會議所内)	本部 東京市麹町區丸ノ内二丁目二番地 (日本工業俱樂部ビル内)
財團法人日本貿易振興協會 <b>日本貿易研究所</b>			
法人團 <b>日本貿易振興協會</b>			

附表第三 馬來の國別貿易 (單位千海峽幣)

Country	Imports from	Exports to	Excess	
			Imports	Exports
Australia :—	1937 14,530 1938 13,084 1939 17,485	31,256 26,692 20,834	— — —	16,726 13,608 8,349
British North Borneo and Sarawak :—	1937 37,496 1938 25,919 1939 39,629	14,277 11,583 13,809	23,219 14,336 25,820	— — —
British India and Burma :—	1937 46,021 1938 41,170 1939 43,037	28,472 24,732 2,6439	17,549 16,438 13,394	— — —
China :—	1937 27,612 1938 23,912 1939 25,905	5,090 3,156 3,898	22,522 20,756 22,007	— — —
Continent of Europe :—	1937 39,133 1938 35,691 1939 28,506	147,413 96,470 78,837	— — —	108,280 60,779 50,331
French Indo-China :—	1937 13,361 1938 14,711 1939 17,578	1,107 1,506 1,830	12,254 13,205 15,748	— — —
Hongkong :—	1937 8,236 1938 8,486 1939 11,664	5,056 4,204 7,259	3,180 4,282 4,405	— — —
Japan :—	1937 40,482 1938 12,426 1939 12,480	60,712 53,887 64,256	— — —	20,230 41,461 51,776
Netherlands Indies :—	1937 220,054 1938 147,822 1939 194,245	34,757 36,858 40,914	185,297 110,964 153,331	— — —
New Zealand :—	1937 709 1938 742 1939 656	3,076 3,854 6,641	— — —	2,367 3,112 5,985
Thailand :—	1937 92,579 1938 85,959 1939 —	14,317 15,704 —	78,262 70,255 —	— — —
United Kingdom :—	1937 105,959 1938 101,979 1939 90,897	98,523 81,054 81,145	7,436 20,925 9,752	— — —
United States of America :—	1937 15,907 1938 17,125 1939 18,305	398,849 171,000 321,984	— — —	382,942 153,875 308,679

Malayan Year Book に依る



420  
287

昭和十七年八月廿七日印刷  
昭和十七年八月卅一日發行

【非賣品】

東京市麴町區丸ノ内一ノ二  
財團法人 日本貿易振興協會

發行者

內藤保廣

印刷者

大阪市北區芝田町六五  
小山壽夫

印刷所

大阪市北區芝田町六五  
小山成交社印刷所  
(西大七三)

發行所

東京市麴町區丸ノ内一ノ二  
財團法人 日本貿易振興協會

終

